

シャプラニールの震災救援活動

1. これまでの経緯

2011年

- 3月19日 いわき市好間工業団地内の物資集積基地へ救援物資搬入
- 4月9日 災害ボランティアセンター運営支援開始 ～8月
- 5月6日 生活支援プロジェクト(調理器具セットの提供) ～7月末
- 10月9日 被災者のための交流スペース開設

2. 交流スペース「ぶらっと」利用状況

1) 利用者数の推移(のべ) 2012年4月～

	日付	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	合計
男性	～10代	140	90	111	122	170	146	88	113	120	111	1211
	20・30代	62	68	62	56	66	62	42	56	38	56	568
	40・50代	65	49	35	56	49	51	34	29	30	29	427
	60代以上	88	84	59	57	72	76	76	100	78	94	784
女性	～10代	189	101	113	143	222	138	122	150	158	140	1476
	20・30代	190	145	169	166	206	177	149	178	146	163	1689
	40・50代	288	235	247	242	204	194	171	186	123	124	2014
	60代以上	179	230	255	240	208	332	291	361	290	403	2789
合計		1201	1002	1051	1082	1197	1176	973	1173	983	1120	10958

2) 利用者の声 2012年8月～2013年1月

- ☆ いわきに避難してから、友達にどこまで心を開いていいものか分からず、愚痴が言えないので苦しい。今から何でも話せる友人を見つけるのは難しい。(浪江・50代女性)
- ☆ いわきでの生活(夫と借り上げ住宅)も慣れたが、知り合いに会える機会がない。小高に築10年の家がありローンを払っているので時々窓を開けに帰っている。通行止めのため遠回りで帰るので非常に不便。(南相馬市・50代女性)
- ☆ いわき市内の自宅が全壊し内郷の借り上げにいたが、1人暮らし用のアパートなので大家さんに出て行けと言われその時点で空きの物件がなく、喜多方市に行ったが非難されることがあり早くいわきに戻りたい。ぶらっと通信はいわきの情報があり面白く毎号楽しみにしている。(いわき市・50代女性)
- ☆ 浪江町で家を建てていて、あとは玄関だけというところで震災にあい、建物の価値はゼロに等しい。避難したいわき市で親をゆっくりさせてあげたいので家を建てるつもり。(親は浪江へ帰ると言っている。)ローンをどうにかできないか困っている。(浪江・40代女性)
- ☆ 震災で無職となり落ち込みがち。富岡町民の集いがきっかけで他のイベントにも参加したいと思い運動教室に参加した。意欲が出てきた。(富岡・50代女性)

- ◇ 2車線が怖くて運転できなかったが、友人に会うため運転してきた。震災後、精神安定の薬をたくさん飲んでいる。周りはどんどん新しい生活に慣れていくのに自分だけ慣れていないことで余計に悩んでしまう。(車の運転の緊張と怖さで手が終始震えていた)(浪江・50代女性)
- ◇ 夫、息子、娘が東電社員。自分自身が完璧主義だったこともあり今の生活に我慢できない。一つうまくいかないと全てに無気力になってしまう。心療内科に通院中。薄暗い借り上げアパートに日中一人でいることでおかしくなる。(3時間ほど話され最後には少し笑顔に。)(檜葉・40代女性)
- ◇ 定期的にぶらっとの教室に参加されるMさん。この夏、食事ができなくなり、何かを食べなければと思い何度かぶらっとの帰りにヨーカドー4階レストランで食べようとするがほとんど残してしまった。体調がずっとすぐれない感じがする。(いわき市四倉・60代)
- ◇ 好間の仮設で一人住まい。原発は安全だと信じ切って30年働いてきたが東電に対して不信感だけ。いわきに住んでいるのに税金を払っていないことに申し訳ないと思う。ぶらっとのような場所があるとホッとする。(大熊・50代男性)
- ◇ 同じ仮設に住む方からぶらっとのことを聞いて見に来た。ご主人は避難区域解除になってから毎日朝から夕方まで檜葉の自宅で片付けや草むしりをしている。その方が落ち着くそう。いずれ帰りたいたいと考えているがライフライン、病院、お店が整わないと生活できない。先が見えない。(檜葉・60代女性)
- ◇ 広報誌に同封されたぶらっと通信を見て勇気を出して来た。何もする気が起きずアパートにこもっていたが通信を見て外に出てみようという気持ちになった。健康教室に定期的に参加できるようになった。(双葉・60代女性)
- ◇ 避難で転々とし、息子夫婦のいる埼玉の借り上げに入ったが、交流サロンへ行っても双葉の人には会えなかった。道に迷ったことがきっかけで外出できなくなり、誰とも話さないでいたら声が出なくなった。足腰も弱り歩けなくなり、毎晩泣いて過ごした。いわきに戻って来ることができ、嬉しくて元気になった。(双葉・60代女性)
- ◇ 震災後1年埼玉に避難していた。古い物件で借り上げ対象にならず家賃を支払い続けていた。神白の仮設が当たっていわき市に戻れて嬉しい。4畳半2部屋で狭いが贅沢は言えない。快適に暮らせるように工夫したい。(大熊町、60代男性)
- ◇ 震災後ガンになり手術、80キロから50キロまで痩せた。うつ状態で何もする気が起きなかったが、最近自分の力でなんとかしなければと河川敷を散歩し始めた。声を掛け合う人もいてだんだん前向きになってきた。「ぶらっと通信」を毎号楽しみに読んでいて息子に頼んで連れてきてもらった。(浪江町、60代女性)
- ◇ 自宅は半壊だったが親戚の家は津波で流された。四倉には檜葉や広野の仮設があるが、四倉の人が住めないのが不思議でならない。地元の人たちがどこに行ってしまったのか連絡もつかない。(いわき市四倉、60代女性)
- ◇ 津波で家を失くしたことと原発避難の人とは違うと感じる疎外感から引きこもりがちに。神戸に避難した娘は地元の人たちがとても親切に無料の交流会や集会の場を作ってくれ、手厚い支援を受けた。通りすがりの人に家電を全てもらったり、お医者さんも薬代はいらなと言って診察してくれた。美容院でも「阪神大震災を経験していないスタッフはつくな」と店長さんが毎回無料でカットしてくれた。福島県やいわきは何もしてくれないとつ

- くづく感じた。(南相馬市、30代女性)
- ◇ 小名浜の借り上げに夫婦でお住まい。孫は少しの地震でも「津波が来る」と言って泣く。トラウマを抱えてしまっている。自分自身も全て流され絶望的になった。家にあるものひとつひとつに思い出があった。復興住宅に入る予定。(いわき市江名、70代女性)
 - ◇ 気分がどん底の時にたまたまぶらっとの前を通りかかって、声をかけてもらえて救われた。自宅が全壊で息子も失業して毎日つらい。毎日立ち寄りたが自分はいわき市の人間だから悪いような気がする。(いつでもお越しく下さいと伝えてある。ぶらっと常連の方と仲良くなり二人で食事に出かけるようになった。)(いわき市、70代女性)
 - ◇ 最近いわきに越してきた。知らない土地での生活は不安だらけなので自由に立ち寄れる場所があるのは助かる。震災後、同じ町出身の人と出会う機会がないので、ぶらっとで会えたら嬉しくて泣いてしまうと思う。(双葉町、50代女性)
 - ◇ 近所に原発避難の人がいて交流したいがきっかけがない。ぶらっとに来て双葉郡の方と話をして交流したい。(いわき市神谷、60代夫婦)
 - ◇ 小名浜の借上げアパートに住んでいたが隣近所の物音がうるさくて精神的におかしくなりそうだった。そのことが家族とのけんかのもとにもなっていた。息子に自分たちのことは気にしないで好きなようにしたらと言われ中央台の中古物件を購入した。(檜葉町、60代女性)
 - ◇ ご主人が朝晩の散歩以外外に出ず、人とも話さないで声がかすれて聞き取りづらくなった。物忘れも激しくなって心配。(富岡町、70代女性)
 - ◇ 道を覚えようとつい遠くまで歩いてしまった。帰宅したら動悸がして、脈も飛んでしばらく横になったがとても怖い思いをした。(大熊町、60代女性)

以上

ブログ：交流スペース「ぶらっと」@いわき

<http://ameblo.jp/sniwaki/>

特定非営利活動法人 シャプラニール＝市民による海外協力の会

〒169-8611 東京都新宿区西早稲田 2-3-1 早稲田奉仕園内

TEL 03-3202-7863 FAX 03-3202-4593

<http://www.shaplaneer.org/>